

令和4年度 教員表彰 表彰式

令和4年12月23日(金)
15時30分から16時30分まで
川崎市役所第3庁舎18階講堂

- 1 開式
- 2 表彰状授与
- 3 祝辞
- 4 来賓紹介
- 5 被表彰者による取組内容の紹介
- 6 記念撮影
- 7 閉式

《被表彰者の表彰の内容及び実践の概要》

1 川崎市立麻生小学校 清野 貴史 教諭（2 ページ～）

【表彰の内容】

「児童一人ひとりを大切に丁寧な教育実践、積極的な研究推進及び他教職員への意識活性化」

【実践の概要】

ユニバーサルデザインを具現化した学級経営の工夫や、学習指導要領をよく理解した、児童と一緒に授業を作り学習意欲を高める授業の工夫など、児童一人ひとりを大切に優れた教育実践を行っています。同僚の教職員、保護者とも協力的に物事を進めることができ、児童、教職員、保護者の意欲や意識向上に影響を与えています。

平成30年度から副読本「かわさき」の編集委員として、郷土資料編集、作成に尽力し、令和3年度には副読本「かわさき」の大改訂に伴い総合教育センターに設置された郷土資料編集研究会に研究委員として関わり、改定の趣旨に則った授業を実践し、他校の校内研修の講師を務めるなど、本市の社会科教育の充実・発展にも努めています。

また、授業の板書を写真に収めながら、日々の授業の振り返りを欠かさずに行い、授業の改善や教材研究についても地道な努力を続けています。非常に物腰が柔らかく、穏やかな点が他の教員や児童、保護者の信頼獲得にもつながっています。

2 川崎市立高津高等学校 露木 律文 総括教諭（15 ページ～）

【表彰の内容】

「川崎市内外における ICT 教育の推進、ICT 活用のための施設環境整備及び教職員の ICT 活用能力の向上」

【実践の概要】

かわさき GIGA スクール構想が開始される前である令和元年度から、生徒の ICT 活用能力向上や PC 等を使った資格試験の受験等に活用していくこと目的として、タブレット端末の生徒一人一台環境を実現し、情報科の授業だけでなく、総合的な探究の時間等でも生徒の興味が湧く授業に取り組み、生徒の ICT 活用能力や発表力の向上について成果を挙げています。

タブレット端末の導入に当たっては、校内の合意形成や保護者の理解促進などに尽力されました。

校内では、教職員の校務効率化を進めるための資料を作成し、率先して研修を行うとともに、情報科以外の教科でも生徒の情報活用能力が育成できるように、進んで ICT の活用が不得意な教員の相談にも乗り、学校全体の情報活用能力の向上に取り組んでいます。

かわさき GIGA スクール構想の推進校の中では、GIGA スクール構想推進教師（GSL）として川崎の ICT 活用能力の推進にも尽力しており、市外でも神奈川県高等学校教科研究会情報部会の実践事例報告会で発表し、成果を挙げています。

「児童一人ひとりを大切にした教育実践、児童・教員それぞれが生かされる学年経営」

1. はじめに

教員として12年間川崎市に勤め、現在は2校目で働いている。その中で、①「チーム」②「個（性）」を生かすことを大切に実践してきた。①の「チーム」は、学校、学年、学級と様々な集団で過ごしている中で、そのメンバーと協力・連携して取り組むことである。②の「個（性）」は、チームを大切にしつつ、一人一人の良さが生かされ、個が輝く姿であると考え。そのために、適切な環境づくりを行うことや、お互いをよく知り、コミュニケーションを十分に図ることを大切にしてきた。その2点について取り組んできた実践を詳しく報告したい。

2. 学級経営と授業

【学級経営】 「すべての子どもにとって分かりやすく、過ごしやすい環境づくり」

①すべての人を大切にする関係づくり

誰もがお互いを認め合うような関係づくりを大切にしてきた。「3つの約束」を学級のルールとして指導を行い、子どもたちが安心して過ごせるような環境づくりに取り組んできた。「①きまりやルール②自分③（周りの）人」を守っていくように指導している。その上で、子どもたちの思いや発言がどの子も言えるような環境を目指して、ユニバーサルデザインの考え方などを参考とし、一人もとりにこぼさないような支援を行ってきた。

黒板の周りには、余計な情報を張らずに、黒板外に貼るようにしている。日付、日直の札、当日や翌日の時間割、などはすべて黒板から除外するようにしている。黒板の周囲に刺激の多い物を避けることで、視覚的に優位な子どもでも授業に集中しやすい環境づくりを行っている。時間割は、2日分を示して掲示することで、見通しをもって行動できるようにしている。

黒板の文字、ホワイトボードの文字を色覚的な配慮として色分けしている。黒板の文字は、基本的に白、要点は黄色、線や枠を赤、というように色分けを行っている。ホワイトボードの文字は、青色で示すようにしている。視覚的に分かりやすく整理したり、色によって要点が分かるようにしたりして工夫している。

【授業】 「子どもの思考の流れを大切に、子ども主体の授業づくり」

①教材研究・授業準備

「教師は授業で勝負」「クラスは授業でつくる」ことを信念として、教材研究や授業実践と改善を行ってきた。主要教科においては、単元計画及び毎時間の板書計画を作成してきた。毎年、ノートに綴ってそれを振り返ることによって、自分の授業を見直すとともに、よりよい指導法を模索することにつながってきた。常に目の前にいる子どもたちの実態に合わせた授業展開となるようになってきたと考える。そして、子どもたちが「やってみたい」「学びたい」という思いをもつことができるような単元計画や本時の展開を考えることを大切にしてきた。教科書の資料を写真にとってGIGA端末で提示をしたり、児童の思考の流れに合うような展開や発問をしたりするようにしてきた。「教科書を学ぶ」のではなく、「教科書を使って学ぶ」ことで、子どもたちの学習意欲を喚起してきた。実践後の黒板を写真記録として残すことで、自身の授業を振り返り、次時以降の授業実践へとつなげていくようにした。また、黒板の記録を評価として活用することも行ってきた。子どもの発言の記録から本時の理解度を確かめるようにした。評価を記録に残す場面においても、児童の発言した内容を見とるようにしてきた。

②主体的・対話的で深い学び ～子ども主体の学びにむけて～

小田嶋教育長の夏季特別研修受講後には、「令和の日本型学校教育」に挑戦している。奈須先生の講演も視聴し、子どもたちに単元計画をすべて公開し、そのねらいや評価について伝えている。また、子どもたちが主

体となって授業を行う時間を明示して、見通しをもって学習できるようにしている。まだ、実践が半ばとなっており、試行錯誤を重ねて子どもたちと共に取り組んでいる。これからは、新しい教育の形を模索するためにより一層、教材研究・授業準備に取り組んでいきたい。それとともに、子どもが主体となって学習するためのカリキュラムマネジメントを考えていきたい。

3. 学年経営 「チーム学校、チーム学年、チーム学級」

①情報の共有化

学年の先生方とともに行動することを大切にしてきた。資料の用意をすることで、「共有化」を必ずはかるようにしている。「報連相」をお互いに行うことで、学年全体を4人で運営してきた。そして、実践を決める時には、「全員で決定する」ことを行ってきた。

②チーム支援

児童指導においては、「その日、その時、すぐその場で」を基本に担任だけでなく、速やかに管理職、COに報告をすることや、学年内で共有することでチームでの支援を行ってきた。事実確認、対応方針の決定、役割分担、支援の継続や振り返り、といった対応の流れを必ずとるようにしてきた。

③保護者との協働

麻生小学校では、年に2回の教育相談期間を設けている。子どもを中心として、学校・保護者が互いの方針を理解するために、十分な児童理解と資料づくりを大切にしてきた。まず、子どもの実態をさらに詳しく知るために、「振り返りシート」を用意した。児童が学校生活を見つめ直し振り返ることで、教師の視点と子どもの視点から児童理解を深めることができる。今までの記録や振り返りシートを基にして、「教育相談資料」を作成した。子ども自身の希望に沿っていけるように、児童のがんばりや課題と思っていること、保護者に伝えたい情報など、1人1人の資料にまとめることで保護者と前向きに話し合う時間をつくるようにしてきた。

4. 研究

①副読本「かわさき」

総合教育センターの事業として、改訂作業に4年間携わってきた。川崎市内の小学生が社会科などでよりよい活用ができるように、チーム一丸となって取り組んできた。川崎市内に足を運び、現地で得られた取材の成果を共有し、紙面に生かしてきた。また、市民読本としての機能もあるため、川崎市の魅力が全国各地、世界の方々に伝わるような紙面構成を大切にしてきた。

②社会科教育研究会

常任委員として、その役割や責務を果たすために研究活動に取り組んできた。川崎市内の先生方が「社会科が楽しい」と思い、よりよい授業を行うことができるようにすることが、私たちの役割であると考えている。そこで、様々な研究や研修の機会を通じて先生方に発信してきた。その中でも「3年部会」の部長として、3年生の子どもたちが、「川崎市が大好き」という学習指導要領のねらいを達成するための授業提案を行ってきた。

③校内授業研究会講師

社会科を研究する市内の小学校に講師として招かれ、授業の指導講評を行ってきた。指導講評で大切にしてきたことは、「実践の価値」を伝えることである。授業者の思いや良さを共有し、認め合うことで研究がより深まると考える。そして、授業改善の視点を持ち、よりよい実践方法を提案することで、今後の研究に対する意欲の向上と深まりにつなげるようにしてきた。

5. まとめ

小学校教育研究会の活動を通して「社会のしくみを理解する」「人の営みや思い」という考え方を学んできた。まさに、チーム（組織）や個を大切にする考え方に通ずるものである。個々に違いがあってもそれぞれが尊重されチームとして力を集め、一人ひとりの子どもたち、教員自身も自分たちの所属するチーム、そしてお互いを大切にできる社会をつくっていけるように実践に努めていきたい。

「児童一人ひとりを大切にした教育実践、
児童・教員それぞれが生かされる学年経営」

川崎市立麻生小学校

教諭 清野 貴史

発表の流れ

～はじめに～

①学級経営と授業

②学年経営

③研究

～まとめ～

～はじめに～

①チーム

②個（性）

①学級経営と授業

○だれもが安心できる

○互いを認め合う

○UD（ユニバーサルデザイン）

①学級経営と授業

「3つの約束」

- 1 きまりやルール
- 2 自分
- 3 (周りの) 人

①学級経営と授業

必要な情報だけ！！



①学級経営と授業



①学級経営と授業

見通しをもつ

色彩



①学級経営と授業



教室環境整備

①学級経営と授業



①学級経営と授業

構造化

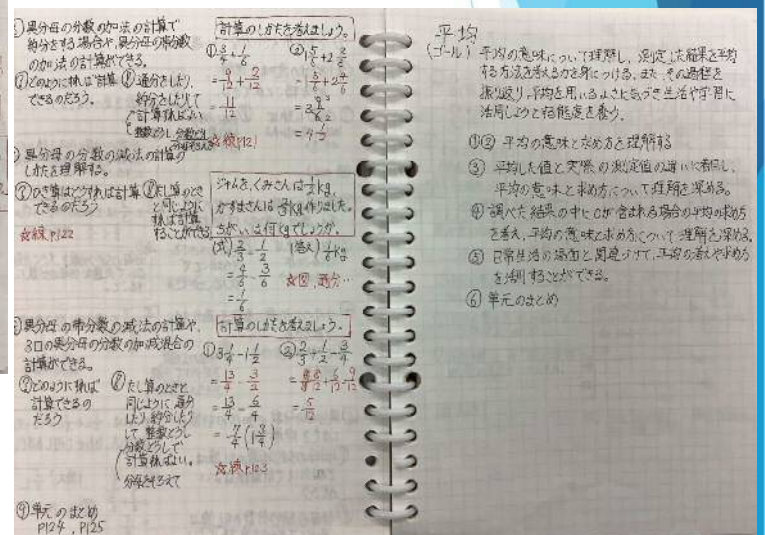
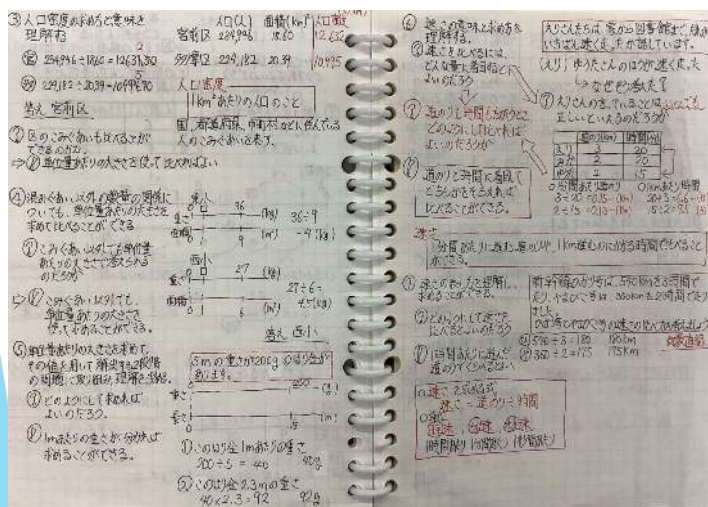
色彩



①学級経営と授業

教師自身が学ぶ

楽しい授業づくり



①学級経営と授業

学習計画の公開

「たがいの立場を明確にして、話し合おう」

よりよい学校生活のために
～身の回りの問題を解決するために話し合おう～

ゴール：・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。
・たがいの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

【学習計画】

1時間目	学習課題やねらいを知り、学習計画を立てることができる
2時間目	学校生活を振り返って課題を考え、話し合っ課題を決めることができる。
3時間目	課題について考えを書き出し、分類したり関係づけたりして、自分の意見をまとめることができる。
4時間目	立場を明確にして話し合う方法をとらえ、役割や進行のしかたを決めることができる。 ～話し合いの準備～
5時間目 ★	たがいの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 ～話し合い～
6時間目 ★	立場を明確にした話し合いについて学習を振り返って、考えをまとめることができる。 ～単元のまとめ～

①学級経営と授業

子どもたち主体の授業づくり

分数の大きさとたし算、ひき算

【学習計画】

1時間目	大きさの等しい分数の表し方を考える。
2時間目	約分の意味を理解し、約分できる。
3時間目	分母の数がちがうとき、大小の比べ方を考え、通分の意味を理解する。
4時間目	分母の公倍数に着目して、通分することができる。
5時間目	分母の数がちがうときの分数のたし算の計算のしかたを理解する。
6時間目	分数のたし算の計算を考える。
7時間目 ★	分母の数がちがうときのひき算の計算のしかたを理解する。
8時間目 ★	分数のひき算の計算を考える。
9時間目	単元のまとめ

【3時間目】

$\frac{3}{5}$ と $\frac{2}{3}$ はどちらが大きいですか。

【4時間目】

$\frac{5}{6}$ と $\frac{7}{8}$ の通分のしかたを考えましょう。

(練習p.118)

【5時間目】

ゆきさんは、 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{3}$ Lのジュースをしばりました。あわせて何Lあるでしょうか。

(練習p.120)

【6時間目】

計算のしかたを考えましょう。

$$\textcircled{1} \frac{3}{4} + \frac{1}{6} \quad \textcircled{2} 1\frac{5}{6} + 2\frac{2}{3}$$

(練習p.121)

【7時間目】

ジャムを、くみさんは $\frac{1}{2}$ kg、かずまさんは $\frac{2}{3}$ kg作りました。ちがいは何kgでしょうか。

(練習p.122)

【8時間目】

計算のしかたを考えましょう。

$$\textcircled{1} 3\frac{1}{4} - 1\frac{1}{2} \quad \textcircled{2} \frac{2}{3} + \frac{1}{2} - \frac{3}{4}$$

(練習p.123)

共有化
チーム

②学年経営

○その日、 その時、
すぐその場で

○チーム支援

②学年経営

児童理解

学校生活ふりかえりカード

番 名前 ()

(1) 生活のふりかえり

() 委員会 () クラブ
() 実行委員 () 係
() 当番

○委員会活動やクラブ活動、実行委員、係活動、当番活動でがんばったこと

○8月から11月までの学校生活でがんばったことや楽しかったこと、思い出に残っていることなど

・自然教室(仕事、係) ・工場見学 ・休み時間
・クラスの○○さんとの思い出、楽しかったこと など

・自然教室(部屋: カレー: オリエン:)

(2) 学習のふりかえり

①国語・算数・理科・社会から2つ選んで書く

②外国語・音楽・図工・体育から2つ選んで書く

③総合について書く

教科	◎ ○ △	がんばったこと・よくできたこと・もう少しがんばりたいこと
①		
①		
②		
②		
③総合		

(3) クラスの友達で悲しい思いをしている子はいませんか?

(4) 教育相談でぜひ伝えてほしいこと、話してほしいこと、など

②学年経営

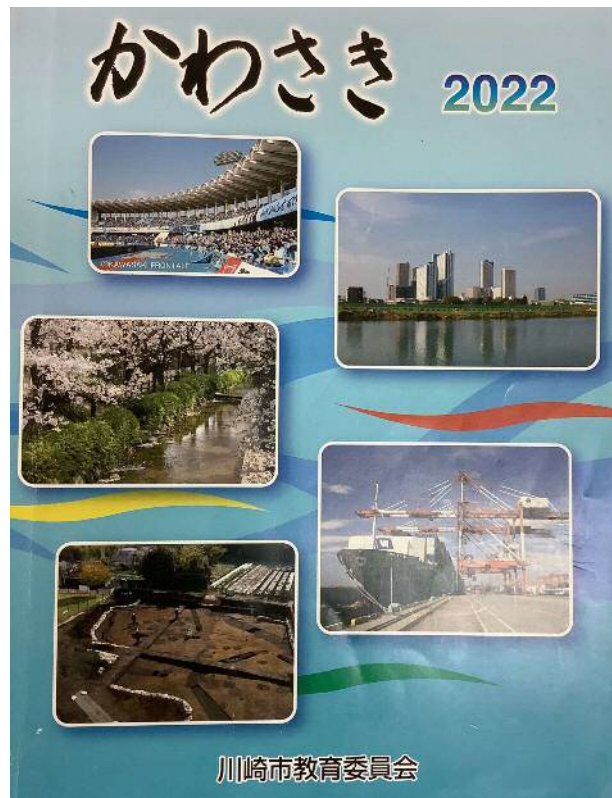
教育相談資料(12月)

日

名前	
生活面 ※長は◎割は○	☆生活面全般・人柄・友達関係・給食・掃除・時間・忘れ物・行事(自然教室、など)
・委員会 ()	
・クラブ ()	
・実行委員 ()	
・係 ()・当番 ()	
・運動会 ()	
学習面	☆成果・課題など
・国、算、社、理、外	
・音、図、家、体	
・総合・道徳	
・学活	
☆その他 (親から質問・要望) (希望用紙に書かれたことなど)	
備考欄	
★伝えるべき課題	
☆冬休みに向けて	
☆学級編成、来年など	

保護者との
協働

③研究



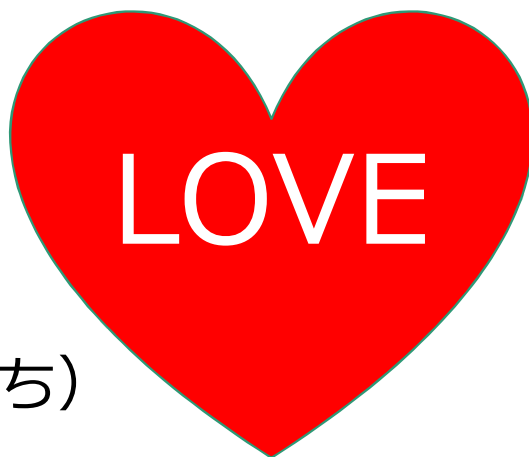
児童の資料

市民読本

③研究

目指す子どもの姿

I
(子どもたち)



川崎市

③研究

実践の価値

1 自分の考えをもち かかわり合いながら 学びを深める子
～主体的に追究できる学習過程の工夫～

2 はじめに...
なぜ、道徳教育が3年生の子どもの心へ...
この活動はなぜ必要か?

3 活動の内容
～はじめに～ 1分
1. 自分について 2分
2. 3年生の道徳・授業について 1分
3. 学習過程 1分
4. 道徳と評価 1分
5. まとめ 1分

4 3年生の単元配列 (70時間)

5

令和4 (2022) 年11月11日 (金)
社会科教育研究会3年部会 部長
川崎市立麻生小学校 清野 貴史

スライド 1/22 日本語

～まとめ～

○「社会のしくみを理解する」

⇒チーム (組織)

○「人の営みや思い」

⇒個 (性)

ご清聴ありがとうございました。



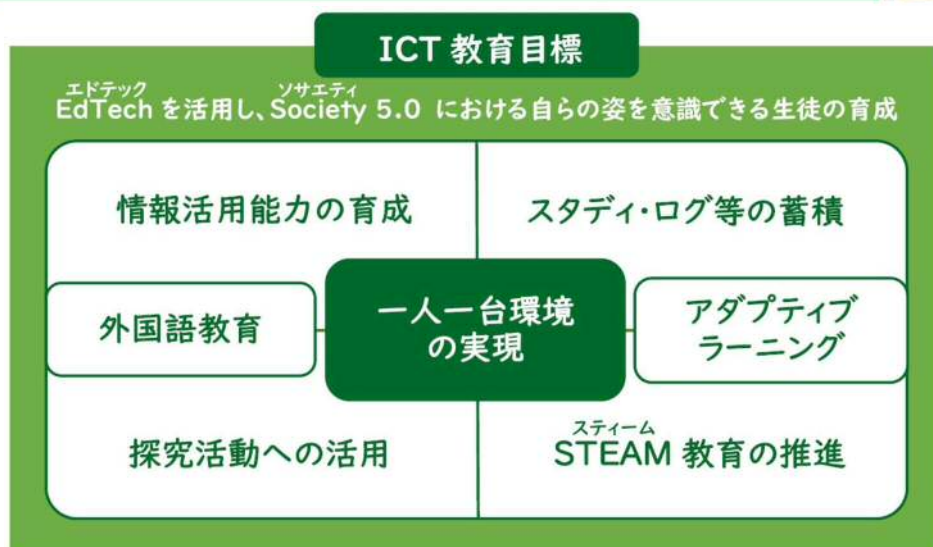
ICT教育の推進に関する実践報告



川崎市立高津高等学校
総括教諭 露木律文

高津高校の取組

高津高校のICT教育目標



高津高校の取組

実践事例



情報活用能力の育成

一つの道具として

筆記用具と同じように
日常使う道具としての
タブレットPCの活用



外国語教育

英語 4 技能の育成

英語科で
EnglishCentralを活用
した4技能の育成



探究活動

個人探究課題解決

探究活動のサイクル
「情報の収集」「整
理・分析」「まとめ・
表現」等でタブレット
PCを活用



STEAM教育

外部機関との連携

大学やNPO法人等の
団体と連携し、文理の
枠を超えた能力の育成

保護者への理解（入学前）

入学前に理解を得る



川崎市立高津高等学校

自分の夢 新しい社会 切り拓くのは君だ!

1人1台タブレットPC導入

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

川崎市立高津高等学校

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

中学3年生（受験生）への周知

- 宣伝用のポスターを配付
- ホームページへの掲載
- 学校説明会での説明

※「活用」に関する説明

入学者（合格者）への周知

- 合格発表時に案内配付
- 入学手続き時の説明会
- 合格者説明会での説明

※「費用」に関する説明

川崎市立高津高等学校

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

川崎市立高津高等学校

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

2019年度入学者より1人1台のタブレットPCが導入されました。

保護者への理解（在学中）

学校生活の様子を配信する

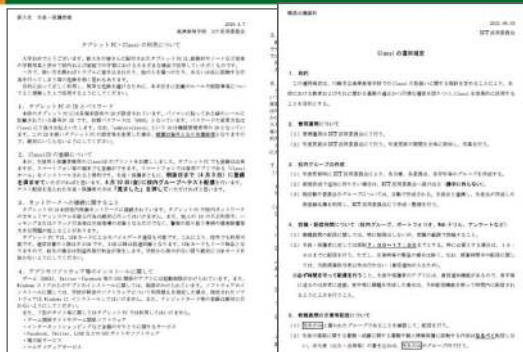
- ・ 学年だよりの配信
- ・ 行事の配信
- ・ 学習記録の配信



保護者に学校での生徒の様子を伝える
保護者とのコミュニケーションツールとしての活用

職員の体制づくり（研修等）

先生が自信をもって扱えるようにする



生徒 & 職員向けのルール作り

- ・ セキュリティ & プライバシーポリシー見直し
- ・ 生徒向けタブレットPC利用のルール作成
- ・ 職員向けタブレットPC利用のルール作成

※生徒・保護者・職員が安心して使える環境づくり

操作方法等の研修

- ・ 職員が使うための研修
- ・ 生徒が活用するための研修
- ・ 著作権等の研修

※先生方が自信をもって使えるような研修



職員の体制づくり（業務効率化）

時間や場所に縛られずスムーズに

- ・ Meetでの打ち合わせ
- ・ チャットでの情報交換
- ・ ドキュメント共有
- ・ 職員会議資料の電子文書化
- ・ 電子アンケート（フォーム）の活用



クラウドを活用し

時間や場所に縛られずスムーズな業務

コロナ禍で生徒と繋がるために

川崎市初のオンライン授業実施

- ・ 2020年4月に神奈川県で緊急事態宣言が発令される。

当時真っ先に考えたことは、**ICTを活用して生徒と繋がりたい！**

2020年4月24日

初めてMeetを使った朝のSHRを開始

2020年5月19日

同時双方向オンライン学習支援を開始



2022年現在もその時のノウハウを生かし、引き続き登校できない状況の生徒に向けて、継続してオンライン授業を実施

コロナ禍で生徒と繋がるために

オンデマンド（録画配信）型から同時双方向型のオンライン授業へ



同時双方向 オンライン授業

同時双方向であれば...

- ・生徒は聞いているだけでなく主体的に参加できる。
- ・生徒の声をはっきり聞き取れる。
- ・意見や感想を瞬時に集計、発表。



対面授業にはないメリットがある

+

対面授業でも使える技がある



ネットワークを通じて
生徒とつながる



生徒の声を聞き、受け答えをする



画面の向こうには多くの
生徒が授業を受けている

取組を広げるために（講演会での発表）

発信することによりノウハウを共有する



2019年より取り組んできたことを各地や
オンラインでの講演会にて発表



一人1台端末導入から3年
川崎市立高津高等学校の工夫と今



川崎市立高津高等学校
情報科 露木律文

高等学校におけるGIGAスクール構想
の現状とOS選定について

川崎市立高津高等学校
総括教諭 露木律文

一人一台
タブレットPCだからできたこと

川崎市立高津高等学校
情報科 露木律文

一人1台端末整備とクラウドの活用

川崎市立高津高等学校
総括教諭 露木 律文

発信をする事により、取組やノ
ウハウを伝え、広めていく

取組を広げるために（公開授業の実施）

市内先生方との情報共有

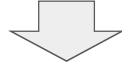


・オンライン授業試行を毎年実施

その際に実際にどのようにオンラインの時の学校での様子を市内の先生方へ公開

・普段の授業の様子を公開

普段の授業でICT活用をどのように行っているのかを市内の先生方へ公開



本校の先生方の研修になり、
さらに市内の先生方と情報共有
を行うことができる



ICT活用で新たな繋がりを

場所・時間・人 新たな繋がりを作るICT



- ・学校と家庭を繋ぐ 保護者や登校できない生徒等との情報共有
- ・小中高の12年間の学習を繋ぐ アカウント引継ぎ
- ・学校間を繋ぐ 先生同士の研修や教科連携
- ・生徒同士を繋ぐ オンラインクラスルームやチャット

場所・時間・人 新たな繋がりを作る
ICTを今後も活用・推進していく